

「IAEA国際スクール 原子力・放射線安全リーダーシップ」
日本国内研修生募集のご案内

原子力の人材育成・確保に向けて産学官が相互協力を行っている「原子力人材育成ネットワーク」は、IAEA主催、東海大学共催による「IAEA国際スクール 原子力・放射線安全リーダーシップ」の開催を支援しています。

本スクールは、2月21日～3月4日の約2週間にわたり、東海大学（神奈川県平塚市）と福島（サイトビジット）で開催します。国際感覚に秀でた原子力・放射線安全の若手リーダーの育成を目的として、IAEAのGSR Part.2「Leadership and Management for Safety」と整合した内容についてロールプレイを通じて体験することができます。2020年の2月に初めて日本で開催され、参加者からは安全を最優先とするマインドセットを学ぶことができると高評価を得ています。

下記の通り、本スクールにご参加いただける国内からの研修生を募集いたしますので、多数のご応募をお待ちしております。

記

1. 開催期間：2022年2月21日（月）～3月4日（金）
2. 開催地： 神奈川県平塚市 東海大学（2/21 - 3/2）
福島県（サイトビジット）（3/2 - 3/4）
3. 本スクールの目的：
若手、中堅の専門家に対して、原子力・放射線利用分野での複雑かつ相克するシナリオ実演を通して、安全を最優先するリーダーシップへの理解を深め、当該能力を開発すること。
4. 対象者： 原子力・放射線利用に関わる分野で活躍する若手・中堅の規制関係者、研究者、技術者、放射線医療従事者、広報担当者、行政関係者（事務系も参加可能）などで、一定の経験（大学院含む）を有し、全期間のプログラムに参加可能な者。
5. 募集人数：15名（日本国内）
6. 内 容： ・ GSR Part.2などリーダーシップに関わるIAEA標準の講義
・ 外国人研修生も含めたケーススタディ及びゲーム形式のエクササイズ(図1,2参照)
・ 福島第一原子力発電所他の施設見学
7. 使用言語：英語（TOEIC690点、TOEFL530点、英検準1級相当以上の英語力が必要です。）
8. 費用負担：参加費用は原則としてIAEA負担（旅費、滞在費等）。
但し、昼食、夕食は自己負担。また、研修場所まで50キロ圏内にお住まいの方は、IAEAの規程に基づき滞在費は自己負担。
なお、参加費用は手続き完了後にIAEAより各参加者宛に個別に送金される予定。

9. 応募方法：別紙の「研修生応募用紙」、「Application Form」及び「Personal Statement」に必要事項をご記入の上、12月15日（水）までに、事務局にご連絡をお願い致します。
（事務局）東海大学 リベラルエデュケーションカレッジオフィス
星野 一幸、小澤 伸将（IAEA.tokai.2021@tsc.u-tokai.ac.jp）
TEL 0463-58-1211（代表）

応募者多数の場合は、選考の上、参加者を決定させていただきます。

10. 実施体制：

主 催：IAEA
共 催：東海大学
後 援：原子力人材育成ネットワーク
協 力：外務省

11. その他：

- ・ 修了者には修了式において、IAEAより修了証が授与されます。
- ・ IAEAより、本スクールのProspectusを入手次第、あらためて原子力人材育成ネットワークのホームページ（<https://jn-hrd-n.jaea.go.jp/>）に掲載しますので、ご確認ください。

本件お問い合わせ先（事務局）：

東海大学 リベラルエデュケーションカレッジオフィス
星野 一幸、小澤 伸将（IAEA.tokai.2021@tsc.u-tokai.ac.jp）
TEL 0463-58-1211（代表）

以上



				
Root Cause Analysis	Position Play	Prevention	Press Conference	Reflection
- Each group determine the root causes of the event - Each group discuss the barriers that could have prevented each 'why'	- A major character is assigned to each group - Each group discuss the principal goals of their character	Discussion on the measures that would prevent the event	Discussion on how to officially distribute information and answer questions from the media	- Discuss how this case relate to your organization? - Discuss how this case relate to you?

図1 ケーススタディの流れとグループ討論の内容



Log in/Log out

ファシリテーターが簡単な質問（how are you feeling right now?など）をして、研修生は簡単な回答を行う、その日学んだことを言うなどする。



Appreciative inquiry

お互いをインタビューし、パートナーをグループに紹介する。

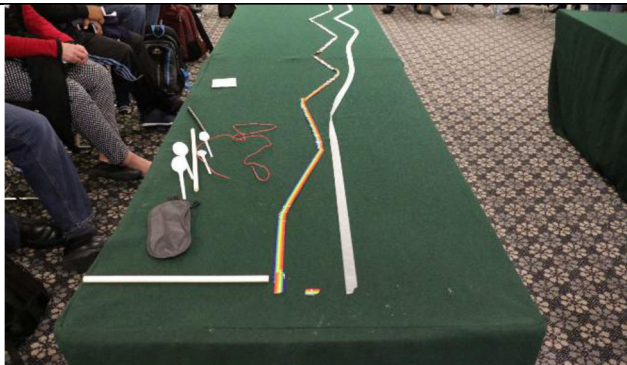


数人のシニアの方が安全リーダーシップに関して経験を話し合う。研修生は周りで聞き、その後、意見交換をする。



Exercise (Triangle)

各人が等距離に立つように調整。



Exercise (Safety Path)

チームワークでボールを線に触れないように運ぶ。



Exercise (Shock Therapy)

正面に立ったお互いが近づき、ショックだったこと、困惑した経験を話し合う。

図2 エクササイズ実施の様子